

博士前期課程

臨床心理学専攻

臨床心理学分野

受験科目名：臨床心理学

(一般選抜)

第1問 次の英文を読み、下の問い(問1~5)に答えよ。

注) 問題文は出典を参照のこと

出典: Schnyder U, et al (2015) *Psychotherapies for PTSD: what do they have in common?* より抜粋

問1 PE療法が主に対象とするのは何という精神疾患か。英語(略語は不可)で答えよ。

問2 PE療法の要素のうち主要なもの二つをあげ、それぞれについて本文中からわかることをまとめよ。

問3 PE療法の要素のうち、問1で答えた以外の残りの要素をあげよ。

問4 emotional processing theory (EPT) の成功に必要と仮定されている二つの状態をあげよ。

問5 下線部①を和訳せよ。

第2問 次の語や句と関係する用語を、下の枠の中から一つ選び、その番号を答えよ。

1. 臨床心理学という言葉の創始者
2. ソース・モニタリング(source monitoring)
3. ストレンジ・シチュエーション(Strange Situation)法
4. ライフレビュー
5. 移行対象(Transitional Object)
6. 愛着理論(attachment)
7. 変数の予測
8. 自己愛傾向(Narcissism)
9. ジェロトランセンデンス(Jerotranscendence)
10. スマーティ課題
11. 2変量質的データ分析
12. ドーパミン(dopamine)
13. 実験法
14. 認知機能
15. 不可能三角形
16. 変数の整理
17. 反応性愛着障害
18. 2変数量的データ分析
19. ミラーニューロンシステム(Mirror neuron system)
20. 面接法

- | | | | | | |
|-------------------|---------------|-------------------|------------------|---------------|------------|
| ①Ainsworth, M. D. | ② Bowlby, J. | ③Butlerr, R. N. | ④ Erikson, E. H. | ⑤ Kanizsa, G. | ⑥Meyer, A. |
| ⑦Penrose, L. S. | ⑧Tornstam, L. | ⑨Winnicott, D. W. | ⑩Witmer, L. | | |
| ⑪因果関係を特定する容易な方法 | ⑫ χ^2 検定 | ⑬下前頭回 | ⑭境界性人格障害 | | |
| ⑮虐待 | ⑯心の理論 | ⑰質的分析 | ⑱主成分分析 | ⑲重回帰分析 | ⑳重相関係数 |
| ㉑前頭前野 | ㉒Dark Triad | ㉓t検定 | ㉔メタ記憶 | ㉕MMPI | ㉖MoCA-J |

第3問 次の心理学に関する研究の説明を読み、下の問いに答えよ。

被験者（20名）に20の単語を一語ずつ順に提示した後、自由再生法にて単語を想起させる実験を実施した。なお、一人の被験者に対して異なる語群リストを用いて40回実験が繰り返された。図1には、再生成績が単語の提示順に沿って図示されている（実験1）。次に、異なる被験者（20名）を対象とし、実験1の方法に、①ある手続きを加えて実施した実験を行い、その結果を図2に示す（実験2）。

※データは架空のものです。

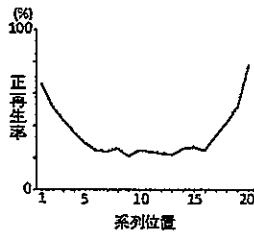


図1 系列位置曲線

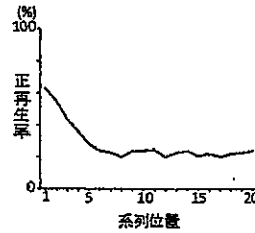


図2 系列位置曲線

問1 図1にみられる2種類の効果に言及しつつ実験1の結果を説明せよ。

問2 下線部①に関して、どのような手続きを加えたと考えられるか。

また、その手続きを加えることで、なぜ図2のような結果になったのか、その理由を述べよ。

問3 実験1・2において、後半に提示された単語（系列位置16～20）の正再生率を被験者ごとに平均し、20名ずつのデータを実験間で統計的に比較することとした。下記の文章は、その統計の進め方を記述したものである。（イ）～（ハ）にあてはまる語句や数字を答えよ。

この研究の（イ）変数は“実験条件の相違（実験1対実験2）”，（ロ）変数は“（系列位置16～20の）正再生率”である。正再生率の平均値に両実験間で差があるかどうかを検討するため、t検定による統計解析を実施することとし、（ハ）水準は1%に設定した。検定の前に、正規性の確認及び2群の（ニ）が等質であることを確認した。

続いて、対応の（ホ）t検定を実施したところ、“ $t(ヘ) = 10.75, p < .01$ ”との結果が得られたため、（ト）仮説を棄却し、2群の平均値に（ハ）差があるとの判断を下した。

（イ） _____ （ロ） _____ （ハ） _____

（ニ） _____ （ホ） _____ （ヘ） _____

（ト） _____

第4問 心理学に関連する、次の1～20の語とそれぞれ関連が最も深い語を、下の語群a～zのうちから一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。

- | | | | |
|--|---|------------------------------------|----------------|
| 1. psycho-oncology | 2. 疾病利得 | 3. multiple baseline design (MBD) | 4. Beck, A. T. |
| 5. Group Conformity Rating (GCR) | 6. Moreno, J. L. | 7. Gendline, E. T. | |
| 8. Jung, C. G. | 9. KABC-II (Kaufman Assessment Battery for Children Second Edition) | | |
| 10. Klein, M. | 11. Erickson, M. H. | 12. Cross-Battery Assessment (XBA) | |
| 13. YG 性格検査 (矢田部・ギルフォード性格検査) | 14. Skinner, B. F. | 15. Bateson, G. | |
| 16. 注意共有メカニズム (shared attention mechanism) | 17. Psychological First Aid (PFA) | 18. 内視療法 | |
| 19. 限局性学習症 | 20. Positive and Negative Syndrome Scale (PANSS) | | |

語群

- | | | | |
|------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|--------------|
| a. 心理劇 | b. PF スタディ | c. 家族療法 | d. 自閉スペクトラム症 |
| e. 世界保健機関 (WHO) | f. 三部理論 | g. してもらったこと／して返したこと／迷惑かけたこと | |
| h. フォーカシング | i. がん医療 | j. 統合失調症 | k. 分裂／投影性同一視 |
| l. 読字の障害／書字表出の障害／算数の障害 | m. 個人的無意識／集合的無意識 | | |
| n. 一事例研究 | o. 虚偽性障害 (factitious disorder) | p. 注意／プランニング | |
| q. 自動思考 | r. 12 の性格特性 | s. CHC 理論 (Cattell-Horn-Carroll 理論) | |
| t. 発達課題 | u. 催眠療法 | v. 三項随伴性 | w. 社交不安症 |
| x. 学習能力／計画能力 | y. 前意識／無意識 | z. 二重拘束説 | |

第5問 次の文章を読んで、下の問い (問1・2) に答えよ。

AさんはB大学の学生相談室に勤務する臨床心理士です。Aさんは、学生相談室の業務の一環として、B大学の学生に対するカウンセリングを行っています。Aさんは今年の4月から、B大学の学部3年生のCさんのカウンセリングを担当するようになりました。CさんはAさんを信頼して話をしてくれて、カウンセリングは順調にすすみ、後期の授業が始まる10月にはカウンセリングを終結しました。Cさんは最後のカウンセリングの時に、「Aさんにカウンセリングしてもらって本当に良かった。Aさんのカウンセリングを受けたことは一生忘れません」と語っていました。

Cさんとのカウンセリングが終結してから2ヵ月が経った頃、Aさんは学食で友達と話しているCさんを見かけました。CさんもAさんのことに気づいるようで、こちらを見えています。しかし、AさんはCさんに声をかけずにその場を立ち去りました。

問1 Cさんに声をかけずにその場を立ち去ったAさんの対応のメリットとデメリットについて論ぜよ。

問2 AさんがCさんに声をかけずに立ち去ったことによるデメリットを防ぐ方法について論ぜよ。